

経済産業省  
産業界と教育現場の連携を推進するコーディネーターに関する研究会（第1回）

## 伴走型教育委員会を目指す鎌倉市の挑戦

---

2026.1.15 鎌倉市教育長 高橋洋平



# 高橋 洋平

鎌倉市教育長

東京大学公共政策大学院非常勤講師

一般社団法人LEAP理事・事務局長

2005-2022



文部科学省

2013-2015



Berkeley  
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

2016-2021



福島県

2022-2023



2023-



鎌倉市

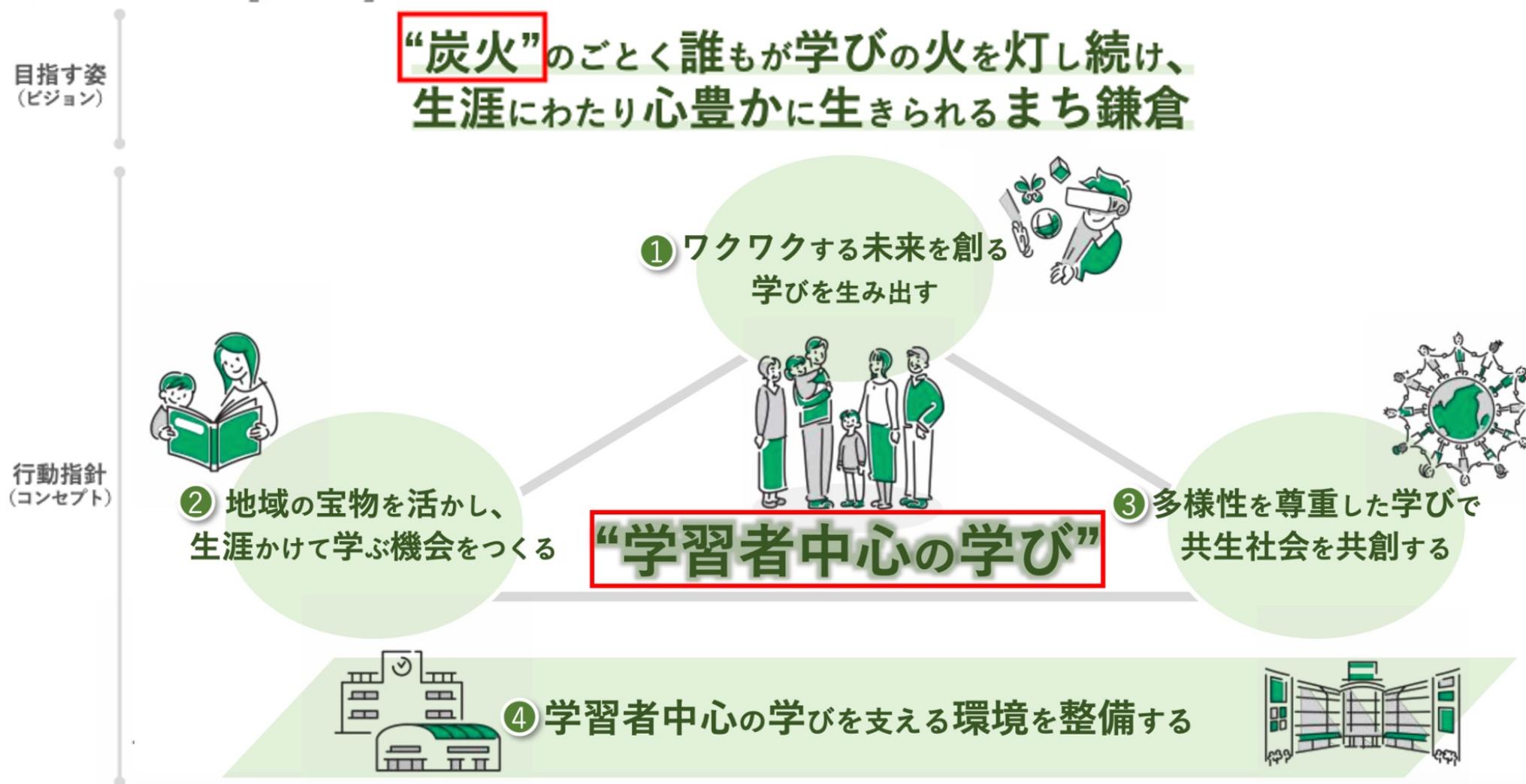
# 1

鎌倉市の例

# 教育大綱[概要版]

令和7年4月に教育大綱を改訂。“炭火”をビジョンとして、“学習者中心の学び”を推進していくことを位置付けた

## 鎌倉市教育大綱[概要版]



# 学校がミライを語れないのは…

- 学校の自前主義・平等重視
- コーディネート人材の不在
- 補助金・税財源に依存

→「共助」で未来につながる教育を

## 20年後の社会を見通した要請



子どもも、教師も  
ワクワクするような  
学びをつくろう。



# 鎌倉 スクールコラボファンド



クラウドファンディング実施中！

# ふるさと納税でこれらの取り組みを支援いただけます！ぜひ！

ふるさとチョイスGCF® プロジェクトをさがす 検索 応募寄付総額 25,910,520,026 円 ふるさと納税ガイド お気に入り 寄付する

プロジェクトをさがす 応援メッセージ GCF®とは ふるさとチョイス 災害支援

TOP > 受付中プロジェクト > 【目標金額達成しました！ネクストゴール（700万円）に挑戦します!!】未来を生きる子どもたちに、未来につながる学びを届けたい！～鎌倉…

## 【目標金額達成しました！ネクストゴール（700万円）に挑戦します!!】未来を生きる子どもたちに、未来につながる学びを届けたい！～鎌倉スクールコラボファンド～

カテゴリー: 子ども・教育



寄付金額

5,474,000円

156.4%

目標金額: 3,500,000円

達成率

156.4%

支援人数

17人

終了まで

21日 / 90日

神奈川県鎌倉市(かながわけん かまくらし)

お気に入り

X ポスト

いいね！

シェアする

# スクールコラボファンドで生まれた実践の数々



慶應SFCやNPOとコラボした  
SDGsの  
プロジェクト型学習



テック系のベンチャーとコラボした  
水中ドローンを使った海の学び

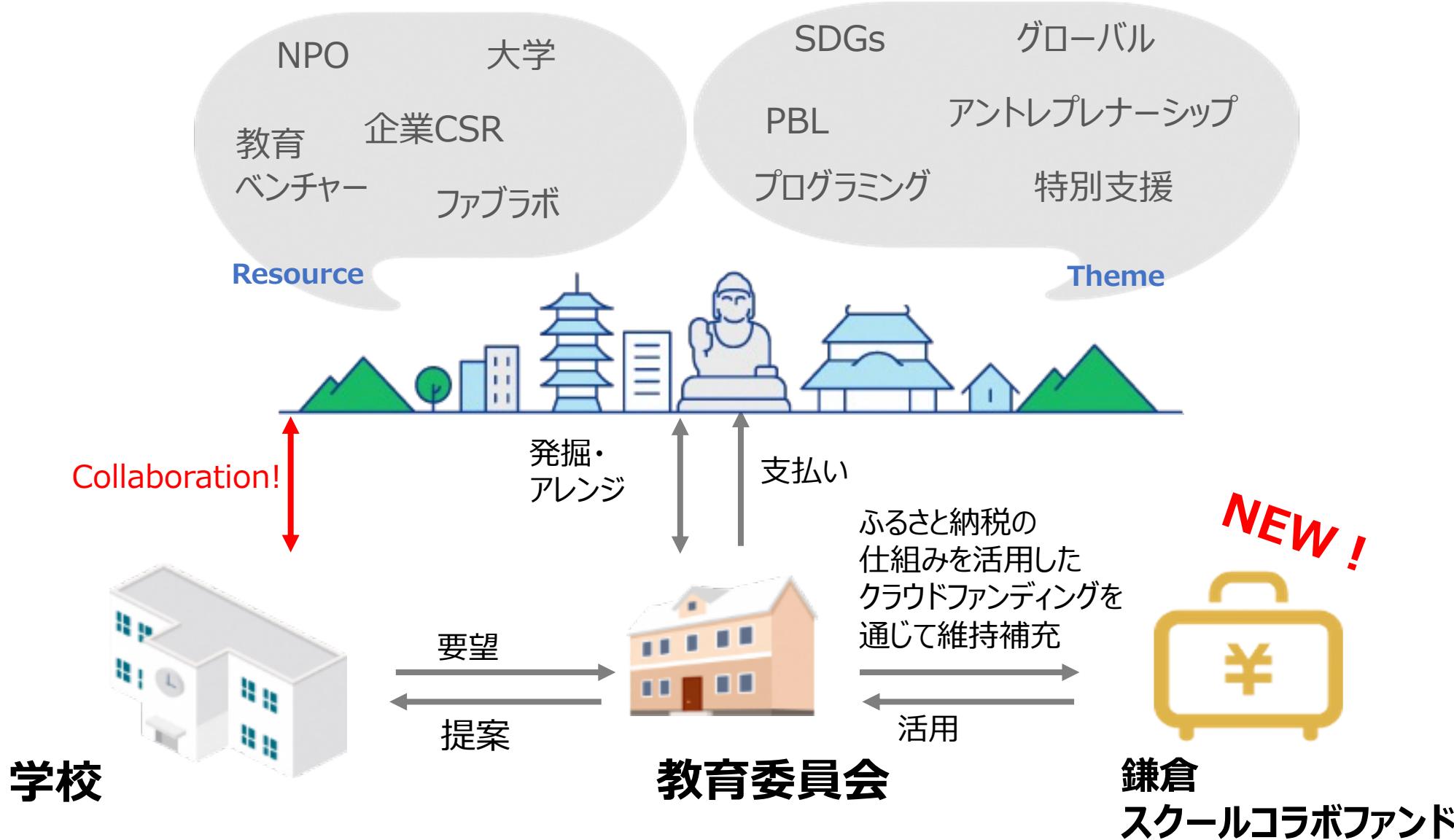


JICAとコラボしたオー  
ルイングリッシュ  
国際交流



パラスポーツ団体や盲  
導犬団体とコラボした  
福祉の学び

# 教育委員会がコーディネータ・伴走者に



# スクールコラボファンドは「共助」の教育モデル

学びの土台と多様な学びが合わさることで  
個別最適・協働的な学びが実現

## 多様な学び

子どもの  
特性・個性を伸ばし  
主体性や創造性を育む学び

## 学びの土台

全てのこどもたちに提供される学び

## 直助

各家庭の経済状況や希望に応じて子どもたちが享受する  
学び（習い事・体験等）

## 共助

社会との連携により、意欲ある学校・子どもの挑戦を積極  
的に支援

## 公助

税財源でカバーし、全ての子どもに等しく提供される学び

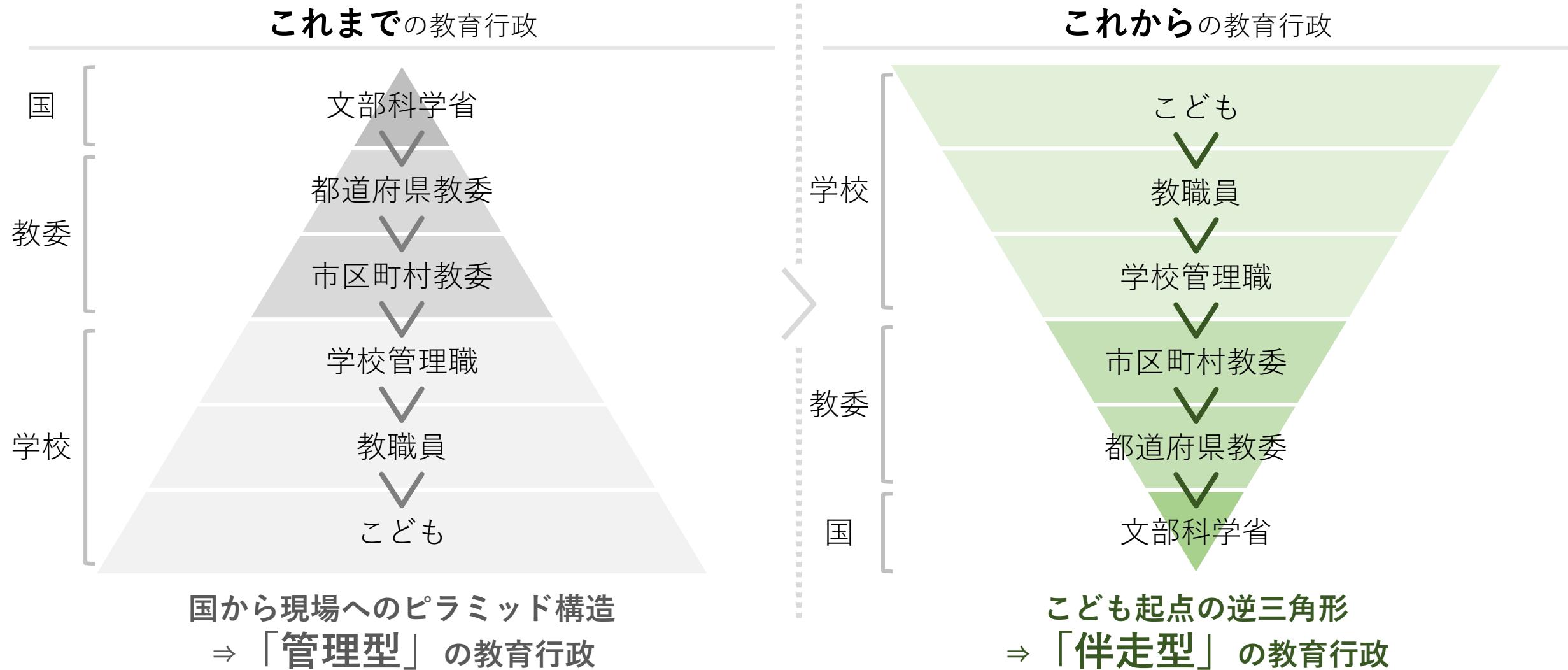
経済産業省「イノベーション創出のための学びと社会連携推進に関する研究会」報告書案より 10



伴走する教育委員会

## 「伴走型」の教育委員会

「管理」的な行政がなくなるわけではないが、これからは、「子ども」や「現場」を起点に、どう寄り添うかを考える「伴走型の教育行政」が必要となる



## 伴走型の教育委員会に向けて、鎌倉市では「教育政策リーダー」や「専門家」、「伴走者」を委員会の内外に配置



## 各種人材が実現した取組（例）

# 教育委員会内外で活躍する多様な人材が、企画調整を推進している

## 市費負担教員採用



**小原聰真 鎌倉市教育委員会次長(学びみらい課担当)**

2015年に文部科学省入省。2022年に合同会社デロイトトーマツへ移り学校教育チームを立ち上げ、未来の教室事務局の運営等に従事。2024年秋から現職。

「市費負担教員制度」の創設においては、制度設計、議会との調整、採用における企業との連携などの業務を統括、推進。



- 通常は県のみが実施する正規の教員採用を、**市が追加的に独自で採用する「市費負担教員制度」を創設**
- 3年間で30名の教員採用を想定。政令市でない市町村がこの規模で教員を採用するのは全国初
- エン株式会社**が実施する「ソーシャルインパクト採用」と連携。「SNS広告」や「スカウト機能」など民間での採用知見を活かして積極的に広報した結果、10名の採用枠に123名が応募

## 学校における探究学習のコーディネート



**NPO法人 未来をつかむスタディーズ**

学生や社会人に対する国際理解教育やキャリア教育、探究学習の講座・ワークショップ等を実施。

2021年より、鎌倉市のスクールコラボファンドを活用して、地域内外の人材と連携した探究学習実践を伴走。



- 「IoTトング」を開発した企業と連携し、地域のごみの分布を調べ、**ごみ問題について探究する活動**や、20人以上の大人を学校に呼び、それぞれの「Well-being」についてインタビューすることで、**生徒自身の「生き方」について探究する活動**などを
- 単なる「探究の代行」ではなく、**あくまで教員がメイン**として、こどもたちと実施したい教育活動を考えながら、**各学級の探究活動が効果的なものとなるようにサポート**

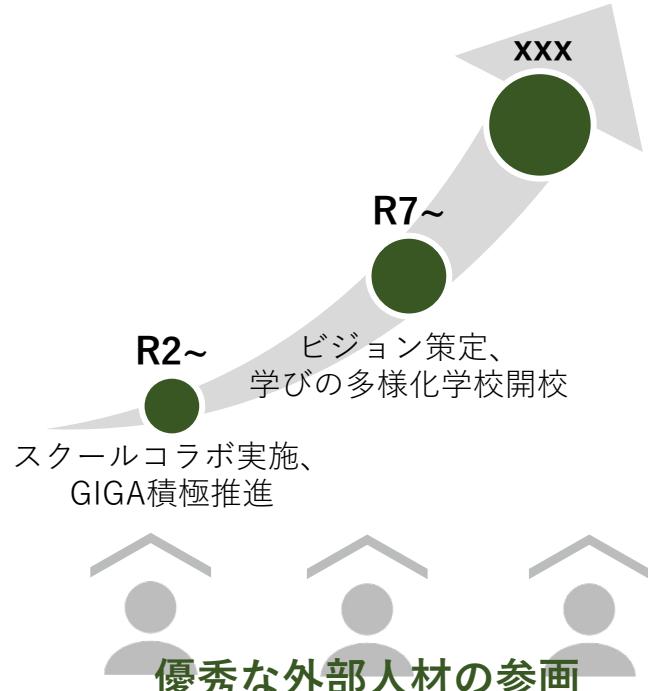
## 外部人材登用のポイント

“鎌倉市は人がいるから改革が進む”でない。むしろ、“少ない人員でも進化しようと  
するから人が集められる”との認識が正しい

### 進化の覚悟



“人が来るから改革が進む”でなく、“進化するから人が来る”



### 相応のポスト



自治体として企画調整など相応しい  
ポスト確保と、受け入れ体制整備



元文科省、  
民間企業管理職経験



**次長**  
(幹部級ポスト)



元弁護士



**課長**  
(管理職級ポスト)

※「地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律(平成十四年法律第四十八号)」に基づき、高度の専門的な知識経験又は優れた識見を有する者として任期付きで登用

### 懐の深さ



組織内外で多様な人材を受け入れ  
ることを許容する寛容さが必要



外部参与



教育行政職

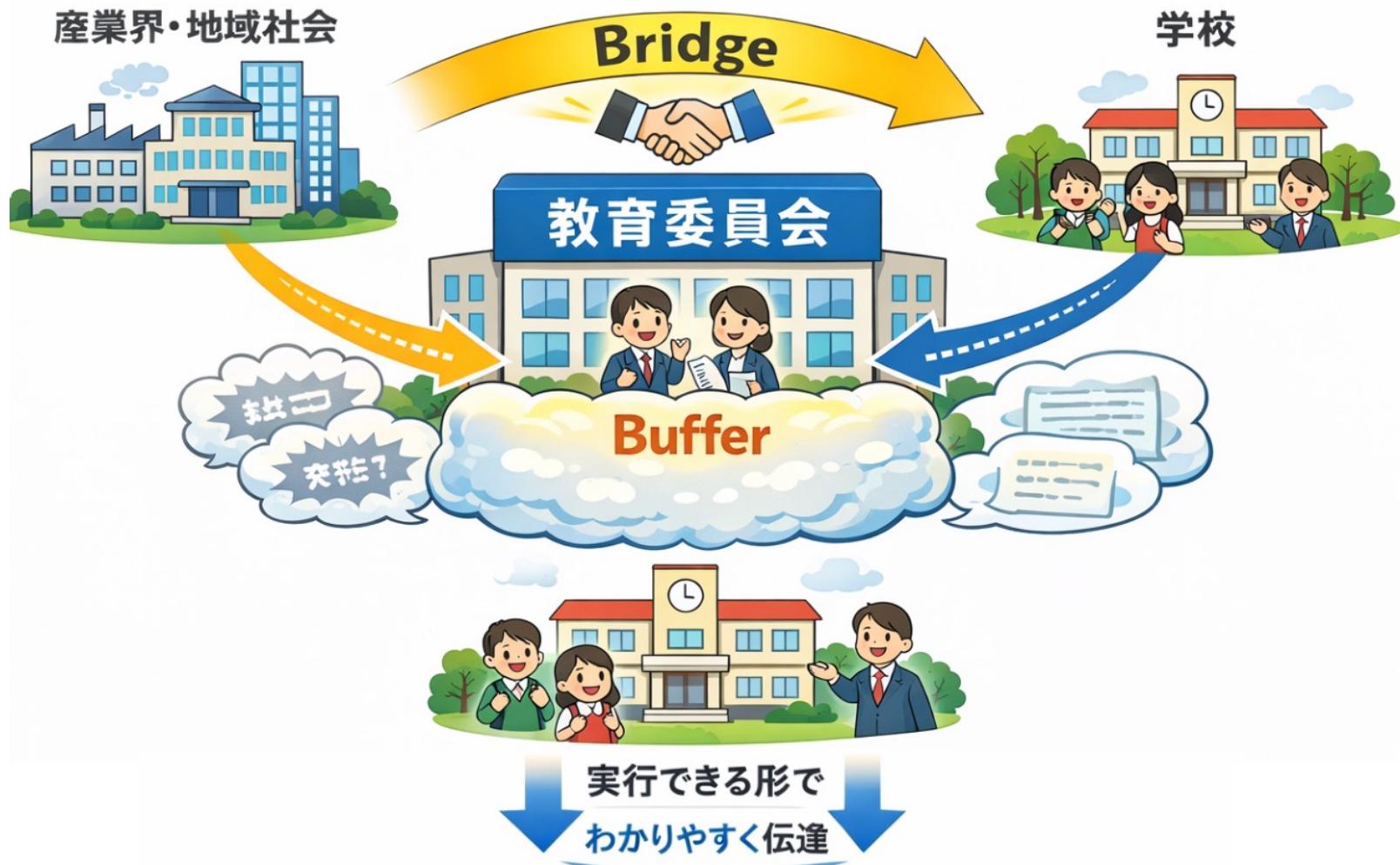
元教員で全国の働き方改革を伴走。

外部の人間が学校内に実際に入って伴走することには**当初賛否があったものの、教委として丁寧に現場へ説明**。今では様々な学校で人間関係を構築。

元教員で、探究学習のデザインやワークショップ設計に専門性。  
**本人の強みも生かせる業務にアサイン**。学校と教委の対話の場を広げ、伴走型教委の実現に大きく貢献。

## 教育委員会の役割

これからの教育委員会には2つのBが求められる。“Bridge（架け橋）”と”Buffer（緩衝材）”



教育委員会は「Bridge」と「Buffer」で社会と学校をつなぐ  
コーディネーター/伴走者

## 伴走者の役割

コーディネーターに必要なマインドとスキルは、伴走する教育委員会と相似形ではないか

### ① マインド

- ・答えがないので、一緒に学んでいくという姿勢
- ・めげない、折れない、くじけない、ワクワク、ポジティブ
- ・学校の自走を願い、「支え、助け、励ます」

### ② スキル

- ・深く見る、深く聞く
- ・学校の自己効力感、関係性の質を高める話術
- ・指摘より「問」重視のコミュニケーション

# 本日のメッセージ

- ① 未来につながる教育を推し進めていくには、多様な人材とのコラボ、それをコーディネートする人材が必要
- ② そのためのマインドとスキルは、**伴走する教育委員会**と相似形。これからは教育委員会側に“覚悟”や“懐の深さ”も問われる

# ありがとうございました

